

# 人権教育がうまくいったりいかなかったりするのはなぜか そもそも「うまくいく」とはどういうことか — 人権教育を学校文化から考える —

日時 2026年5月22日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 若槻 健（研究員、文学部教授）

学校で人権教育を進めることには、独特の難しさがあります。学校は社会化の装置として、既存の社会で主流とされる価値観や知識を伝える役割を担っています。一方、人権教育が扱うのは、差別や不平等に気づき、社会の「当たり前」を問い直す視点です。この違いが、授業や学校の仕組みとの間にズレを生むことがあります。

日本の学校では、秩序や集団の調和、「仲間を大切にすること」が重視されます。しかし、これが“みんなと同じであること”を求める同調圧力に変わり、生徒が不合理なルールに疑問を持つと「和を乱す」と受け取られることもあります。人権教育が育てようとする主体性とは、しばしば緊張関係を生みます。

また、授業や教材には、核家族を前提とした家族像や、外国人を「支援される側」として描くなど、旧来の価値観を無意識に再生産する「隠れたカリキュラム」が残っています。こうした前提は、多様性理解や構造的差別への気づきを促す人権教育と方向が異なる場合があります。

本講座では、学校現場で人権教育を行う際に陥りやすい「難所」を取り上げ、なぜそうしたことが起こるのかを学校文化の視点から考えます。そして、それらを乗り越えるためのヒントを探っていきます。

\* \* \*

## ●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前を受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

\* 手話通訳や介助者同伴等が必要な場合は、5月7日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第125回 10月23日（金）13：00 「子どもの権利～子どもの声を聴くってどういうこと？～」(仮題)

第126回 11月27日（金）13：00 「IOCによる女性選手への遺伝子検査義務付けを検証する

～トランスジェンダー差別と反ジェンダー運動の流れから～」(仮題)

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

e-mail: [jinkenken@ml.kandai.jp](mailto:jinkenken@ml.kandai.jp)

ホームページ: <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>



「新着情報」をご参照ください